

事例	年齢:66歳 性別:男性 疾患名:脳梗塞(発病より9年)		要支援1
	<p>【介入までの経緯】 9年前に脳梗塞を発症、独歩自立、右上肢は補助手レベル、ADLは全て自立しており、妻の介助は特になく、二人で暮らしていた。今回の関わりの半年前に妻を亡くし、ADLは自立しているものの、外出頻度減少、自宅に閉じこもりがちとなる。家事全般は配食サービスや訪問介護を利用していた。</p> <p>【本人・家族の生活の目標】 以前のように電車旅行し、写真を撮りたい。味噌汁ぐらい自分で作りたい。</p>		
	開始時(妻死別後半年)	中間(1ヶ月)	終了(2ヶ月)
ADL・IADL の状態	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL自立。屋内独歩自立。 ・家事はヘルパーが実施。 ・外出頻度減少。閉じこもり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外出機会増加(4回/W) ・屋外歩行の安定 ・調理や洗濯の経験が増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物自立。朝食作りが習慣化する。 ・電車を利用しウォーキングに参加、デジカメを利用し写真撮影などができた。
生活行為 の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラが左手で操作できる。 ・屋外歩行が安定する。 ・調理を経験する。 ・旅行の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電車の利用が可能となる。 ・味噌汁作りの為の買い物ができる。 ・朝食作り(味噌汁作り)が習慣化する。 	<p>【考察】 本人が再開したいと思っていた「電車で旅行し、写真を撮る」という生活行為に焦点をあて、課題を整理しアプローチできたことで、本人の喜びや「まだできる」という自信に繋がった。</p> <p>また、具体的な目標を早期に共有でき、介入の中でできるという見通し、自信が持てたことで、本人が望む生活行為以外の洗濯や簡単な掃除などのIADL活動へも自信を持ちつつ取り組むことまで波及できた。</p>
介入 内容	<ol style="list-style-type: none"> ①デジカメ操作指導 ②外出を促し屋外歩行指導 ③調理活動指導 ④自己訓練指導 	<ol style="list-style-type: none"> ①買い物訓練(外出も含めた) ②電車の乗降、利用訓練 ③味噌汁作り指導 ④ヘルパーと家事の確認、役割分担。 	



「ウォーキングに参加、写真撮影を行う、朝食づくり」という生活行為の目標に対して実際場面での活動・参加に対するアプローチ



結果 : A会社主催のウォーキングに電車を利用し参加し、ウォーキングの中で花の写真撮影ができ、楽しめた。また朝食作りも習慣化し、自立支援を考慮したヘルパーとの役割分担も整理でき、家事活動への取り組みも増加した。

課題 : 今回達成できた生活行為を今後も継続できる事が課題。その為には同じ趣味を持つ方々の交流など人的環境の整備も必要。